

疫病退治を願った

江の島天王祭

赤井 喜久枝

この夏まつりは毎年「天王祭」という腰越の五カ町の祭典部、神社総代、婦人部その他関係者が準備し、7月の商店街は太鼓や笛が流れ多くの人で賑わう夏の風物詩の一つであった。

昨年の天王祭は、新型コロナウイルスの感染予防の一環で祭りは中止となり、祭りが無くなってみると江の島天王祭の意味や、小動神社の例祭と同時に開催され、神輿が同時に海に入るのか等知らないことの大きさに気付いた。そこで天王祭について神社関係者に会い、町を歩き地域の人に祭りや漁業の話聞き、調べたことを報告します。

天王祭は八坂神社（江島神社の境内社）と江の島の対岸にある腰越の小動神社と年一回、海上神輿渡御を同時に行う「行合いの例祭」である。それは、江戸時代に小動神社の神様（須佐之男命）の木像が大津波で流され、偶然にもそれが江の島岩屋付近に漂流し、海士（素潜り漁師）が海中よりすくい上げ、江島神社に奉納し、八坂神社の祭神として祀られたことに由来する。この伝承を再現したのが、毎年7月第二日曜日に行われる神幸祭（神輿の海上渡御・小動神社渡御・東浦祭典）で、その前後数日間の一連の祭礼が「天王祭」と言われる。

八坂神社の神輿海上渡御（とぎょ）はこの祭りの最も興味深い場面である。多勢の担い手に担がれ海中に運ばれる神事が行われる。午後からは江の島離子方と片瀬龍口寺を經由し、腰越小動神社に向かうのである。（里帰りという説もある）

今回は八坂神社と小動神社のそれぞれの神輿海上渡御、と神輿の後につく、宮太鼓・高張提灯・天狗面の等多数が勢揃いの江の島離子をまとめた。

*以下スライドで説明

P3－天王祭の神輿の移動ルート－ハイライト

P14－江島神社－江島神社は日本三弁財天の一つで、海運、徐災、音楽、芸能の守護神。

八坂神社－江島神社境内にあり神様は須佐之男命。疫病除けの神である。

P22－小動神社 小動神社の例祭（天王祭）

*小動神社の神様須佐之男命は神仏習合時、牛頭（ごず）天王と呼ばれ、疫病神（疫病を流行らす恐い神様）とみなされた。この神を祀れば疫病などの災害を免れるとして広く信仰され、全国に広がった。

P31－腰越の人形・山車 五カ町の人形が山車の上に飾られる。

P38－祭りの踊り 子ども会、婦人会の流し踊り。

P44－一束線香 明治中頃コレラが流行し漁師町全体が全滅したことがあった。それから現在も6月1日に供養を続ける人たちがいる。

P48－初日の出 江の島と小動岬の間からの日の出。